



## 円、対ドルで122円台に下落 6年3カ月ぶり安値

24日の外国為替市場で円が対ドルで下落し、一時2015年12月以来6年3カ月ぶりに1ドル=122円台を付けた。米連邦準備理事会（FRB）がゼロ金利政策を解除したことに加え、日本の長期金利が0.23%まで上昇（債券価格は下落）したことで日銀が無制限の国債買い入れ策である「指し値オペ（公開市場操作）」を実施するのではないかとの思惑が円売りにつながっている。

24日の国内債券市場では長期金利の指標となる10年物国債利回りが0.23%と、2月に日銀が指し値オペを発動した水準まで上昇した。2月の指し値オペでは新発10年物国債を0.25%で無制限に買い入れるとした。今回も発動されれば日米の金融政策の方向性の違いが改めて意識され、一段と円安・ドル高が進むとの見方が浮上している。

円相場は2月末には1ドル=115円前後で推移しており、3月の下落幅はすでに7円に達した。原油や穀物など商品市況の高騰による貿易赤字の拡大観測も実需面での円安圧力として意識されている。



1ドル=122円台前半で推移する外為市場（25日午前、東京都港区の外為どっとコム）



## 農産物相場に火種、ウクライナ緊迫 食料一段高に波及も ①

緊迫するウクライナ情勢が農産物相場高騰の火種となっている。ロシアは世界最大の小麦輸出国、ウクライナは小麦やトウモロコシなどの幅広い農産物を供給する。有事となれば、両国からの農作物の供給が減る懸念がある。相場が跳ね上がれば、両国産の穀物に依存する中東の政情不安や、一段のインフレ圧力に見舞われる恐れがある。

国際指標の米シカゴ商品取引所のトウモロコシ先物（期近）は1ブッシェル6.2ドル前後と前年比で1割強ほどの高値圏にある。小麦先物（同）は1ブッシェル7.6ドル前後と前年比2割高い。1月下旬に一時8.3ドル台まで急騰、2021年11月につけた9年ぶり高値の8.6ドル台に迫るなど、穀物相場は神経質な動きが続く。

市場関係者が注視するのは、穀倉地帯を揺るがしかねないウクライナ情勢だ。約10万人のロシア軍がウクライナと国境付近に展開中とされ、侵攻を防ぎたい米欧とロシアのけん制が続いている。

世界の小麦生産シェアをみるとロシアは1割、輸出シェアは2割を持つ最大輸出国だ。ウクライナは小麦で1割と世界5位。トウモロコシでも1割強を占める。食用に使われるひまわり油や、主に飼料用に使われる大麦でも高いシェアを誇る。

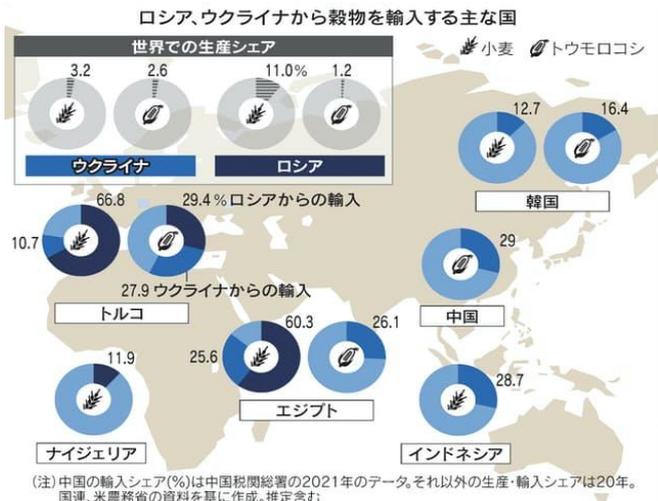
世界最大の小麦輸入国であるエジプトはロシアから6割、ウクライナから3割弱を調達。中東・北アフリカは小麦の世界最大の需要地域だ。水資源に乏しいため、穀物は輸入に頼る。ウクライナのトウモロコシの輸出先は中国が3割を占める。両国は世界の食糧安全保障に重要な役割を担う。

ロシアの産地は、ウクライナとの国境に近い南西部に集中している。ウクライナは全土に肥沃な黒土が広がり、中央部や南部で小麦やトウモロコシなどを生産している。

有事となれば、農作物の産地への被害や黒海沿岸の港から世界への穀物輸送にも影響が及ぶ恐れがある。米欧の制裁はロシアからの穀物輸出を制限しかねない。

世界の小麦市場は人口増加や所得向上による生活水準の上昇から、需要拡大が続く。主要生産国のカナダや米国は高温乾燥で21～22年度の生産量が前年度に比べて減る見込みだ。世界の小麦の同年度の期末在庫は3年ぶりの低水準になる見通し。ウクライナ情勢の悪化が重なれば、一段と需給が逼迫する事態となる。

トウモロコシも需給が引き締まりやすい。世界2位の輸出国ブラジルは高温乾燥に見舞われ、21～22年度の生産量見通しの下方修正が続く。ウクライナ情勢は市場関係者にとって「不安要因」（グリーン・カウンティの大本尚之代表）という。



品目	ロシア	ウクライナ
小麦	19%	8%
トウモロコシ	2	13
ひまわり油	29	47
大麦	16	14



## 農産物相場に火種、ウクライナ緊迫 食料一段高に波及も ②

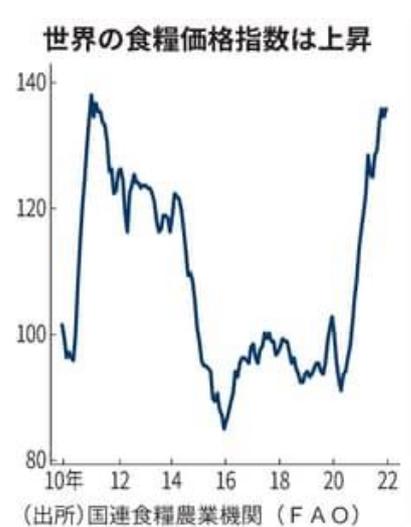
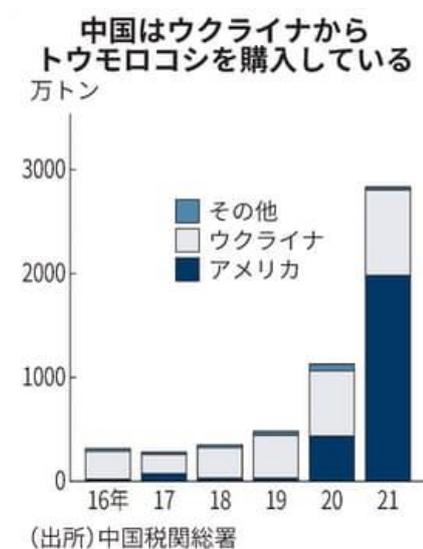
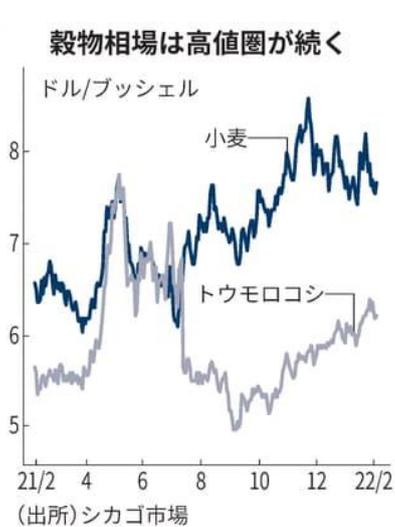
世界最大の養豚国の中国は、最大のトウモロコシ輸入国だ。主に家畜の餌として使っている。輸入量の約3割をウクライナに依存。農林中金総合研究所の阮蔚理事研究員は「ウクライナ産は遺伝子非組み換えで、比較的価格が安い」という。

ウクライナからの供給が急減すれば、中国は最大の輸入先の米国から調達を増やすとみられる。中国が家畜伝染病のアフリカ豚熱（ASF）で減った豚の増産を目指して米国産の輸入を増やした20年から、トウモロコシの国際相場は上昇した。

市場では「ロシア、ウクライナの穀物の輸出量は膨大で、紛争となれば価格が急騰する可能性がある」との声も出ている。ロシアのプーチン大統領が14年3月にウクライナのクリミア半島を併合すると表明するまでの2カ月ほどで、小麦の国際相場は20%強上昇した。

食料インフレは家計を直撃する。特に途上国には打撃だ。国連食糧農業機関（FAO）が3日発表した1月の世界の食料価格指数（14～16年=100）は135.7と21年12月に比べ約1%上昇。パン高騰などに怒った民衆が独裁政権を打倒した「アラブの春」が起きていた11年2月の最高値137.6に迫る。穀物高は中東地域を不安定化させかねない。

足元の原油価格の高止まりに食料高が加われば、インフレ圧力は一段と強まる。世界の主要中央銀行が金融引き締めを強めれば、新型コロナウイルス禍からの回復途上にある脆弱な世界景気を腰折れさせる恐れがある。（皆上晃一、黒瀬幸葉）





2022年 3 月 25 日 担当 小松

## 原油上昇止まってもインフレ高止まりへ＝エルダーソンECB理事

[フランクフルト 24日 ロイター] - 欧州中央銀行（ECB）のエルダーソン専務理事は24日、ユーロ圏のインフレ率について、たとえ石油価格がこれ以上上がらなくても、ECBの2%目標を上回る状態が2023年の相当期間続く可能性があるとして指摘した。

エルダーソン氏は講演で「国際石油価格がこれ以上上昇せず、高水準で安定したとしても、インフレ率は23年に入って相当な期間、2%の目標を上回り続け、目標近辺に落ち着くのは24年と予想している」と述べた。ただ物価安定というコミットメントは揺るぎなく、物価上昇を抑制する方針だと説明した。



## 首都高速会社 羽田トンネル(東京都大田区)、中床版の大規模更新急務に

首都高速道路会社は23日、大規模更新を計画する東京都大田区の「羽田トンネル」で劣化状況などを報道機関に初めて公開した。1964年に供用を開始して50年以上が経過するトンネルは、躯体に浸透する海水が原因でコンクリートの中床版などが腐食。抜本的な性能回復が求められる中、上下線で1日当たり計10万台に上る通過交通に配慮しながら、更新事業をどう進めていくかが課題となっている。

羽田トンネルは1号羽田線に整備された首都高初の海底トンネル。延長約300メートル、幅20・3～36・2メートル、高さ7・4～11・7メートルの規模。トンネル形式は横浜から東京方面に向かって開削、ケーソン、沈埋の3タイプで構成している。

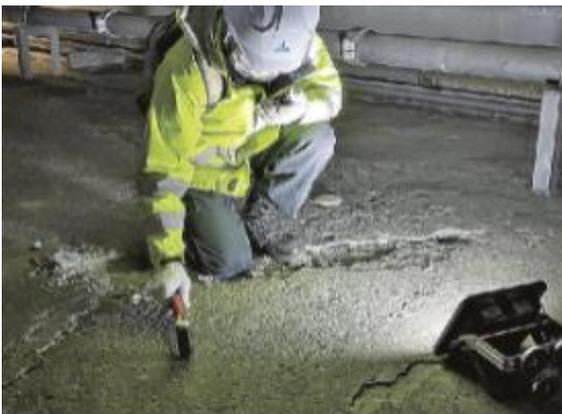
供用を始めて約20年となる1983年、同社は沈埋トンネルの剥落防止対策に着手。その後も天井板の撤去や塩害対策などを実施している。躯体同士を連結する継ぎ目に止水板を施しているが、各所で漏水が発生している。

初公開したのは損傷が著しいダクト部。天井と車道の境に位置する高さ約1メートルの空間は、火災時に煙を逃がす通気口として利用されている。ダクト内はしみ出した海水が影響し、多くの箇所の中床版の亀裂や剥離が目立つ。開削からケーソンに切り替わる上り線部では1分間で最大約10リットルもの海水が流れ込んでくるという。

トンネル躯体の損傷が全面的に拡大している状況を踏まえ、同社は補修を繰り返すなど対応に当たっている。だが抜本的に性能が回復しておらず、ダクトの床版を造り替えるなどの対策が急務となっている。

大規模更新工事の期間中はトンネルの片側1車線が使用できなくなる。付近を流れる海老取川の両岸に架かる「羽田可動橋の一部を再利用したり、恒設の橋梁を新たに架けたり」（首都高速会社担当者）して大量の通過交通に支障を来さないよう工夫する考え。

同社は昨年12月、有識者委員会を設置し大規模更新・修繕などを技術的に検討している。今後は有識者による約1年間の議論を経て、2024年度中の事業化を目指している。



ダクト内の様子



劣化が進行する中床版



## 前田道路／愛知県半田市で合材工場完成、1時間当たり90トン生産

前田道路が愛知県半田市州の崎町で建設を進めていた衣浦合材工場が完成し、24日に現地で火入れ式が開かれた。西川博隆取締役会長、西依和浩中部支店長ら関係者約15人が出席し、完成を祝った。

火入れ式では、西川会長、西依支店長、亀井博文衣浦合材工場長が点火スイッチを押し、プラントを稼働させた。続いて関係者らが神前に玉串をささげ、安全を祈願した。

あいさつで西川会長は「無事故無災害で竣工を迎えられたことを関係者に感謝する。地域の役に立てるよう、新施設でこれまで以上に努力していく」と述べた。

1989年稼働の旧プラントが老朽化したため、昨年4月から敷地内で新施設の整備を進めていた。1時間当たりの生産能力は90トン。合材サイロは貯蔵能力100トンと同120トンの2基を備える。プラントをシェルターで囲み、振動や騒音の防止にも努めている。敷地内にある事務所も建て替え、かさ上げによる浸水対策を行った。

1月から本格的に稼働、半田市や岡崎市などに出荷している。設計はアート総合設計、施工は徳倉建設、田中铁工、ニチュウが担当した。



点火スイッチを押し（左から）西依支店長、西川会長、亀井工場長